PLES Report No. 62

慣用表現を学ぶ

田中茂範
PEN 言語教育サービス代表

以前、ある出版社の編集者が英語の熟語帳を作成する際に、「どうせ熟語は単語帳の添え物のようなものですから」といいました。学校でも、熟語は覚えるしかないので、生徒各自に覚えさせており、体系的な指導は行っていないと報告する教師も少なくありません。大学生に聞いても、その教師の発言を裏付ける結果が得られます。つまり、彼らは中高時代に「熟語帳」のようなものを利用しながら、ひたすら暗記したといいます。中には、熟語は格好いいけど、なかなかうまく使えないという本音をもらす大学生もいます。せっかく覚えた熟語も丸覚えなので、早晩、記憶もあやふやになり、使えるどころではないというのが正直なところでしょう。

ここには２つの問題があります。そのひとつは、熟語は英語学習の副次的なものなのか、という問題です。そして、もうひとつは、熟語は丸暗記するしかないのか、という問題です。われわれの答えは、いずれの問いについても「否」です。慣用表現力を身につけることは英語力の要です。そこで、ここでは慣用表現について詳しくみていきます。

● 慣用表現の性質

どの言語でも夥しい数の慣用表現があります。慣用表現は、まさに慣用化された表現であることから、言語の遣り取りという実践の中で、反復して使用され、慣用表現を聞けば、意味が瞬時に理解できるというものです。「おはよう」や「こんにちは」はその典型例です。朝初めて出会った人には「おはよう」とあいさつをします。すると、相手も「おはよう」と応えてくれるでしょう。慣用表現なくして言語活動は行えないというぐらい重要なものです。「ありがとうございます」「よろしくお願いします」「まあまあです」「遺憾であります」などすべて慣用表現です。

慣用表現は日常的に大切だから慣用化され、その言語を話す人によって自然に使われるのだということができます。デンマークの言語学者イエスペルセンは、「言語は自由表現（free expressions）と慣用表現（formulas）の両輪である」と述べています。自由表現は、語彙と

文法を使って創造的に作り出す表現のことをいいます。一方、慣用表現は、そのままの形で日常的に反復使用される表現のことをいいます。日本語や英語といった言語文化が産出した表現のストックです。そしてそのストックは何万の数になるといわれています。

しかし、慣用表現と一口にいっても、その種類は多様です。慣用表現の世界に分け入るためには、その夥しい数の慣用表現をどう分類するか、という問題についてみていく必要があります。以下では、いわゆる「慣用表現」をどう分類するかを示していきます。

- **慣用表現のタイプ**

「慣用表現」といって、第一に思いつくのが、以下のような日常的な決まり表現です。

・ああ、そうか、わかった。　Oh, I see.
・ああ、なんてこった。　Oh, my, my.
・合図して。　Give me a sign.
・会いたいな。　I wish I could see you.
・飽きちゃった。　I'm bored.
・あげるよ。　You can keep it.
・頭にきた。　I'm mad.
・（探し物をしていて）あった！　I found it!
・当ててごらんよ。　Take a guess.
・あとでやります。　I'll do it later.
・後で後悔するぜ。　You'll be sorry.
・後にして。　Not now.

これらは見たらわかるように、日常生活のいたるところで使われます。海外に行った日本人のこどもがまず使えるようになるのもこうした表現です。日常会話では　You can keep it. とか I found it!などまるごと反復して使われます。そこで、上記のような慣用表現のことを「丸ごと慣用表現」と呼ぶことができます。

第二に、わかりやすい慣用表現の事例として「諺とか成句とか箴言」の類の表現が多数あります。現代英語でもよく使うものをいくつかリストすれば以下のようになります。

・A drowning man will catch at a straw.　溺れるものはワラをもつかむ。
・Walls have ears.　壁に耳あり。
・Easy come, easy go.　悪銭身につかず。
・Give and take.　もちつもたれつ。

・A hedge between keeps friendship green. 親しき仲にも礼儀あり。
・Haste makes waste. 急いては事を仕損じる。
・Strike while the iron is hot. 鉄は熱いうちに打て。
・As you make your bed, so you must lie in it. 自業自得。
・Every cloud has a silver lining. 苦あれば楽あり。
・Four eyes see more than two. 3 人寄れば文殊の知恵。
・An apple a day keeps the doctor away. 1 日 1 個のリンゴを食べれば医者はいらない。
・Speak of the devil, and he will appear. 噂をすれば影が差す。
・Money talks. 金がモノをいう。
・Money comes and goes. 金は天下の回りもの。
・A book that remains shut is but a block. 宝の持ち腐れ。
・Rules are made to be broken. ルールは破られるために作られる。
・The dice is cast. サイは投げられた。
・When the cat is away, the mice will play. 鬼のいぬ間の洗濯。
・Grass is always greener on the other side of the fence. 隣の芝生は青いもの。

これらは状況をまとめ上げるときなどに効果的に使われます。だれかが Rules are rules.（決まりは決まりだ）といえば、それに対して Rules are made to be broken, you know. のように応じる方法があります。これは慣用表現に対して、慣用表現で応じている例です。

上のリストに有名人のコトバなどを加えると「諺（や成句や箴言）としての慣用表現」の数は相当の数になります。例えば、トルーマン大統領の執務室には The buck stops here.（責任は俺がとる）が座右の銘としてあり、この The buck stops here.は米国人の多くが知っている表現です。同様に、同時代を生きたマッカーサー元帥の Old soldiers never die, they just fade way. （老兵士死すことなく、ただ静かに去るのみ）だとか、平和主義者ガンジーの You must be the change you wish to see in the world. （世界でみてみたいと願う変化にあなた自身がならなければならない)、あるいは銃弾に打たれたパキスタンの少女として有名なユフスザイの One pen can change the world.（一本のペンがあれば世界を変えられる）など枚挙に暇がありません。

第三に、動詞や名詞や形容詞を単独で取り上げた場合、非常の多くの慣用表現が見つかります。これを「語固有の慣用表現」と呼ぶことができるでしょう。ここでは、具体例として、動詞 run が作り出す慣用表現のいくつかをリストしてみます。

・be running late(予定より)遅れている
We're running late. Hurry up!

・**make your blood run cold　(恐ろしさで)血を凍らせる**
Just the thought of him makes my blood run cold.
・**run an errand 使い走りする**
I have to run a few errands for my mother.
・**run around in circles 堂々巡りをする，まごつく**
I feel like I am running around in circles trying to deal with this problem.
・**run deep　流れが深い**
Prejudice runs deep in that part of the country.
・**run for your life(危険などから)命からがら逃げる**
The volcano is erupting. Run for your life!
・**run its course 通常の経過をたどる**
I think we should let the problem run its course and see what happens.
・**run out of steam/gas 燃料切れになる;元気がなくなる，活力を失う**
After a day of Christmas shopping, I ran out of steam.
・**run riot　騒ぎまわる**
The class ran riot with the substitute teacher.
・**run wild　(植物が)自然のままはびこる**
After his death, the garden was left to run wild.
・**well/badly run うまく経営された／経営のまずい**
Everyone thought the class was well run.

これだけではありません run にはいわゆる句動詞と呼ばれるものも多数あります。run after, run on, run down, run up, run away, run along, run back, run behind などがそれです。

動詞の慣用表現として「句動詞」と「動詞慣用表現」を分けることが可能です。同様に、名詞関連の慣用表現、そして形容詞関連の慣用表現といった具合に品詞を考慮しつつ、個々の語が繰り広げる慣用の世界をまとめるということができるでしょう。

第四に、情報的にみて、副詞情報を表す慣用表現が圧倒的に多いと思います。以下の例にみられるように、表現自体が副詞的なはたらきをする表現です。

in the end/ as a result/ by and large/ generally speaking/ to make the matters worse/ to make a long story short/ after all/ to start with/ to wrap up/ to one's great surprise/ in contrast/ in one's opinion …

これらの副詞的慣用表現の数は多数ありますが、それを機能別（「要約する」「はじめる」「感

情を表す」など）に分類することは英語力を高める際に大変有用であると思います。

これだけではありません。第五に、品詞といえば、以下のようにかなりの数の前置詞句があります。

in terms of/ with respect to/ as regards/ in light of/ in lieu of/ on account of/ on the basis of/ above and beyond …

さらに、第六として、いわゆる「数量詞」に関連する慣用表現も加える必要があるでしょう。

plenty of/ a lot of/ millions of/ tons of/ a great amount of/ a bulk of/ a blade of/ a piece of/ a cup of …

そして、第七に、慣用表現の「大物」といえば、機能的慣用表現があります。「依頼する」「約束する」「提案する」「念を押す」「割り込む」「同意する」「反論する」などといった行為を言語機能と呼びます。そして、それらを表現する際のコトバの多くは慣用化されたものです。例えば、以下はその事例になります。

・話題を導入する

You know what? / Guess what. / You'll never guess what happened. /Did I ever tell you that ...? / Listen. I have the most astonishing things to tell you. /You know what (Dorothy did)? / Did you know what happened to (Jim)?

・話題を変える提案をする

How about this? /I'll tell you what. /Tell you what.

・何かの提案を求められ、しばらく考えたあとで、ある考えを導入する

How does this sound? /I don't know, but one possible idea would be .../ I know what we can do.

・途中で話題を変更する

Oh, by the way .../ Incidentally .../ To get off the subject a moment .../ That reminds me of something. / Do you mind if I change the subject?

・一度脱線した話を元に戻す

To return to our main topic .../ To get back to the point .../ Let us get back on the track .../ Where was I?

このように機能慣用表現は言語を使う目的とつながっており、慣用表現の中でもその重要度は高いといえるでしょう。

最後に第八として、文法慣用表現といったものがあります。学校で英文法の時間に覚えたことのある構文たちです。

if it were not for…/granting that …/ provided that …/ I wish I were …/ Nothing is more … than/ I'm planning to/ I'm going to/ I'd like to/ far from/ by no means/ should've done/ would've done/ it goes without saying that/ it seems to me that/ not so…as/all you need to do is ……

以上、慣用表現を整理すれば、①丸ごと慣用表現、②諺（や成句や箴言）としての慣用表現、③語固有の慣用表現（個々の動詞、名詞、形容詞が作り出す慣用表現）、④副詞的慣用表現、⑤前置詞的慣用表現、⑥数量的慣用表現、⑦機能的慣用表現、⑧文法的慣用表現があります。これだけではありませんが、主だった慣用表現を分類するには有用な分類基準だろうと思います。これまで、熟語とは決まり文句という名の下、雑多な表現がリストされてきましたが、ここで示したような分類を行うことが慣用表現力を身につける第一歩だろうと思います。

- **「慣用表現力」という考え方**

上では、たくさんある慣用表現の分類の方法を示しました。英語力という観点からみた場合重要なのは、「慣用表現力（formulaic competence)」を身に付けるということです。
私たちは、日々の会話で、その都度、単語と文法を使って、自由に表現を作りだしています。これを「自由表現（free expression)」といいます。しかし、どの言語にも非常にたくさんの慣用表現があります。上でも指摘した通り、言語は自由表現（free expression）と慣用表現（formula）を両輪として機能しており、どちらにも教育的配慮をする必要があるとわれわれは考えています。

英語力を高めるためには、自由表現を作るための「文法力」と「語彙力」と同様に、「慣用表現力」にも注目する必要があるということです。しかし、残念ながら「慣用表現力」という概念はキチンとした形では、現在の英語教育の中で定義されていません。

実は、「慣用表現力」は、筆者らが最近使っている用語です。概念が生まれることで、はじめて教育の対象が定まることがあります。基本語力や慣用表現力はまさにその働きをする概念だとわれわれは考えています。

荒っぽい言い方をすれば、慣用表現を有効に使って思いを表現する力、これが「慣用表現力」です。慣用表現力があれば、意図（言いたいこと）を最も的確に表現することができます。例えば、謝罪する際に日本語では「どうもすみません」（英語だと I'm sorry.）といいますが、これは謝罪の気持ちを端的に表す慣用表現です。

ここで強調したいポイントは、慣用表現を自分の英語力の一部にするには、慣用表現をバラバラに暗記するのではなく、関連づけて「慣用表現ネットワーク」として学ぶということです。慣用表現がネットワークのように整理されていれば、それは確実に生徒の英語のレパートリーとなるはずだからです。

- **慣用表現を学ぶ**

慣用表現が上手に瞬時に使えるかどうかが、真の英語力の鍵であることは間違いありません。上では、慣用表現の分類のしかたを 8 個の領域として示しました。慣用表現を使えるようにするには、それぞれの領域（ドメイン）の表現をネットワークとして関連化させる方法が効果的だ、とわれわれは考えています。なお、ここでいう「ネットワーク」は「意味的に関連した表現をまとめたもの」を指す言葉です。

- **数量詞のネットワーク**

例えば、数量詞関連の慣用表現は相当数ありますが、質量名詞（water や paper など）を計量する慣用表現に注目してみましょう。a piece of とか a cup of などがその例ですが、この計量を表す慣用表現を「容器」「分断」そして「単位」の 3 つの観点から整理し、ネットワークを作ることができます。

A.容器

・a bucket of water バケツ 1 杯の水
・a cup of coffee 1 杯のコーヒー
・a glass of wine グラス 1 杯のワイン
・a spoonful of honey [medicine, sugar]
スプーン 1 杯のはちみつ[薬、砂糖]
・a pot of tea ポット 1 杯の紅茶

B.分断

・a bar of chocolate 1 個の棒状のチョコレート
・a cut of meat ひと切れの肉
・a cut of meat ひと切れの肉

・a bag of flour ひと袋の小麦粉
・a carton of eggs 卵 1 カートン
・a barrel of whiskey　ひと樽のウィスキー

C.単位

・a blade of grass 1 枚の草
・a block of ice ひとかたまりの氷
・a chunk [hunk/block] of cheese　ひとかたまりのチーズ
・a lump [cube] of sugar　1 個の角砂糖
・a stick of gum　1 枚のガム
・a cake of soap　1 個の石けん
・a lock of hair　ひと房の髪
・a pane of glass　1 枚のガラス

ここでは、計量に関する表現を「容器」「分断」「単位」にわけ、慣用的な表現を整理する方法を示していますが、このネットワークを見ているだけで「覚えやすい」と感じるでしょう。それだけではなく、意味的に関連したネットワークとして覚えておくと、使うさいにも使い勝手がよくなると思います。バラバラの知識より、関連づけられた知識のほうが役立つということです。

● **機能的慣用表現のネットワーク**

機能的慣用表現の領域においても、例えば「割り込み」に注目してネットワーキングすれば、①他人の会話の中に自分が第三者として割り込む場合の表現、②相手が話している最中に、何か質問したり、コメントしたくなった時の表現、③直接的に割り込む場合/相手の言っていることが間違っている場合の表現、そして④割り込みを望まないときの表現などのように実際に起こりうる行為に注目する方法があります。

・他人の会話に第三者として割り込む

Pardon the interruption, but ... /I'm sorry to interrupt you, but ... /Excuse me for interrupting, but .../ May I interrupt you for a moment?

・対話の相手として質問やコメントするために割り込む

Sorry, but I have a question./ May I ask you a question?/ I would like to say something.

/ If I might add a word ... /Do you mind if I say something? /Can I say something?

・直接的に割り込む場合/相手の言っていることが間違っているので割り込む

Hold it, Ken!/ Wait a minute, Susan!/ But, Mom ...

・割り込みを望まないとき

Hold on a minute./ Could you hold on a minute?/ OK, but let me just finish./ Let me finish this./ May I finish?/ Just a minute, I want to say one more thing./ Just one more thing (and I'll drop the subject). /Please don't interrupt./ Hear me out, please.

同じように、機能表現領域の中で「慰め・お悔やみ」ということに注目すれば、「慰めの言葉を言う」に対して「慰めのコトバを受け入れる」「慰めの言葉を受け入れない」があり、また関連項目として「お悔やみを述べる」に対して「お悔やみの言葉に応答する」があります。ここで、ネットワークを作成するとは、それぞれの行為を表現するための慣用表現を整理することをいいます。そうすることで、表現のレパートリーを広げていくことができるはずです。

・なぐさめの言葉を言う

That's too bad./ That's awful./ Oh, I'm very sorry!/ I'm sorry to hear that./ I know how you feel./ I feel bad that there's nothing I can do to help./ I feel pity of you./ What a pity! /Tough break. /Better luck next time./ What a terrible thing to have happened./ I'm sorry to hear that. It must be pretty rough on you./ I can imagine you feel bad. /I sympathize with you./ I know how you must feel. …

・なぐさめの言葉を受け入れる

Thank you. That's very kind of you./ It is a pity, isn't it?/ Oh, well, such is life./ So it goes, I guess. /Better luck next time.

・なぐさめの言葉を受け入れない

Don't feel sorry for me. /You don't need to feel sorry for me./ Don't give me your sympathy./ Oh, leave me alone./ I don't want your pity./ I don't need your sympathy.

・お悔やみを述べる

I'm sorry to hear about your father./ Let me offer my condolences./ Let me tell you how sorry I am to hear about your grandmother./ I know how you must feel ... /It must be pretty hard on you ... /You must feel terrible about losing your brother like this ...

・お悔やみの言葉に応じる

Thank you./ That's very kind of you./ There's nothing that can be done about it./ It's God's will, I suppose ...

これらの表現をバラバラに丸覚えするのと、このように意図に応じた慣用表現を整理した形で覚えるのとでは、大きな違いがあります。ここでのポイントは、ネットワーキングという作業において、話題を決め、その話題の言語的展開をネットワークの観点として想定することで、現実世界での言語使用に即した慣用表現の整理のしかたができるということです。

- **慣用表現のプレハブ効果**

慣用表現にはプレハブ効果というものもあります。文法慣用構文の場合、構文の型を利用しつつ、部分だけを調整することで簡単に表現を作り出すことができるようになります。I wish I were …とか Nothing is more important than …とか All I want to say is …など文法慣用構文はたくさんありますが、それを有効に使うことで英語表現を楽に作り出すというのが慣用表現のプレハブ効果です。ここでは、I wish I were を例にしてみましょう。

I wish I were Superman.
I wish I were a bit taller.
I wish I were smarter than that guy.
I wish I were much richer and much more active.
I wish I were able to marry that woman and live on an island in peace together.
I wish I were able to get the Nobel Prize in literature and donate all the money to the poor.

I wish I were が繰り返されていますが、これは慣用表現の生産性の高さ（いろいろな表現を作り出す力）だということができます。

- **会話の流れを調整する慣用表現**

慣用表現は会話の流れを調整する際にも重要なはたらきをします。ここでも具体例をみておきます。会話では you know と I mean が多用されます。これらは慣用表現です。この２つは慣用的な使われ方をする表現の代表です。you know は「相手への投げかけ」と「相手

との知識共有の確認」、I mean は「話し手が自ら意図を明らかにする」という原基的な機能を持っています。you know が「相手への投げかけ」であるとすれば、I mean は「自助努力の現れ」です。また、相手への投げかけは会話の協働作業性を絶えず確認する作用があります。

もう少し具体的にいうと、you know は、(1)相手の注意を喚起し、後続する内容に関心を向けさせる、(2) 相手に馴染みある情報を導入することでわかりやすく説明する、(3)組み立てかけた情報を捨てて、再度組み立てなおす、(4) 相手に共感を求める、(5)語句が思いつかないとか言いにくいことをいう際のシグナルなどとして機能します。例えば、以下の会話では A が 2 度 you know を使っています。最初の you know は相手の注意を喚起し、後続する内容に関心を向ける作用があります。2 つ目の you know は相手に共感を求めるという働きがあると考えることができます。

A: They really are, because they don't know anything.
B: Right, right. They're just discovering it.
A: You know, kids are kids, and when they reach puberty, hormones go crazy, you know.

一方、I mean は、(1)関連情報の追加、(2)言い直し（構文的調整)、(3)念押し、(4)(理由付け、(5)言い淀み、(6)先行内容の明瞭化、(6)結論化などのはたらきを持ちます。

A: So your first love. When was --- when you really felt --- fell in love, about how old were, I mean, when you really felt like this is real serious?

この例では、うまく表現がまとまらず、試行錯誤を重ねた末に、言い直しをしていますが、その際のシグナルとして I mean が使われています。

言いたいことを思いつくまま話す。これが自然な会話の要請です。そのためには情報を必要に応じて追加しなければなりませんが、情報追加の過程において、ストーリーがはじめから完成しているわけではなく、話しながらストーリーを作るという生の会話においては、言い直し、言い淀み、話題の放棄などがごく自然に起こります。会話のフローは文の直線的な線上をなだらかに進むというよりも、むしろ自己修正を行いつつ、断片が断片を引き込み合いながら、意味的なまとまり感を生み出していく流れです。そこで重要な役割を果たすのが you know と I mean などの慣用表現です。これらの慣用表現は、会話のナビゲーターのような働きをします。

このように、英語を使う中での慣用表現ということに注目することが大切です。上でも述べ

ましたが、慣用表現力は、語彙力と文法力と並んで、英語力の要になります。「慣用表現力」という概念を意識して英語を勉強すればきっと英語力は高まると思います。以下では、生徒に慣用表現力を付けさせるための資料として、慣用表現の具体的な使い方をいくつか紹介します。

- **慣用表現の指導のための事例**

ここでは、慣用表現を指導するにあたり、日常行為における慣用表現の具体的な使い方をみていきます。まず、注目したいのは「断る・反論を述べる」際の慣用表現です。

- **断る・反論を述べる際の慣用表現**

英語で会話をしていてむずかしい場面は、何かを断る場合と反論を述べる場合だと思います。どちらも、下手をすると相手の面子をつぶしたり、相手を不快な気持ちにさせたりする可能性があるからです。ここでは、上手に「断る」と「反論する」ためのやり方をみていきます。その鍵になるのは慣用表現の使い方です。

・断る（refusing）

まず同じ断るといっても、「依頼（頼みごと）を断る」と「申し出・勧めを断る」があります。まず、頼みごとを断る場合をみてみましょう。例えば Rex が仲のいい友人 Jim に Could I borrow your car?（車貸してくれない？）と頼まれたとします。Rex は、はっきり No way!（ダメ！）と応じます。もちろん、一度断っても、相手が簡単に引き下がるとは限りません。

Jim: Rex, could I borrow your car?　ねえ車、貸してもらえないかな
Rex: No way.　ダメだね
Jim: Come on. It's just a company car.　いいじゃない。会社の車だろう
Rex: I can't. I'm responsible for it.　無理だよ。ちゃんと責任があるんだから。
Jim: Just for two hours. Please…. 2 時間だけ、お願い。
Rex: Look, I wish I could, but I'm sorry I can't.　うん、できればそうしたいんだけど、ゴメン、無理なんだ。

このやりとりの中に注目すべきことがいくつか含まれています。まず、Rex の No way. ですが、「ダメ」とか「無理」という意味合いです。これは、親しい間柄でなければまず使いません。しかし、Jim はそれでも諦めず、「いいじゃないか。どうせ会社の車だろう」と迫

ります。ここで Rex は理由を述べて、「無理だよ。ちゃんと責任があるんだから」と断ります。さらに、相手は「2 時間だけ、お願いだから」と懇願しますね。それに対して、Rex も「できればそうしたいんだけど、でも、ゴメン、無理なんだ」と相手の立場を尊重しつつ、やんわり断ります。

すなわち、何かを断る際には「理由を述べる」と「相手の立場を尊重する」の２つがポイントということです。相手の立場を尊重しながら断るには、「すみません」とか「残念ながら」と申し訳ない気持ちを表現する方法と、「できればそうしたい」と自分としては受け入れたいという気持ちを表現する方法があります。英語では、以下の表現がその典型例です。

I'm sorry I can't.（すみません、ちょっと無理なんです）
I'm afraid I can't. （残念ながら無理なんです）
I'd be happy to, but I just can't.（喜んでそうしたいんですが、でも無理なんです）
I wish I could, but I'm sorry I can't.（できればそうしたいんだけど、ごめん、無理なんだ）

以下は、上司に、「今週の土曜日に仕事頼めるよね」といわれ、「残念ながら、それはできないです。妹の結婚式に出席することになっているんです」と断る場面です。

A: Can you work this coming Saturday?
B: I'm afraid I can't. I'm going to my sister's wedding.

もうひとつ、何かを断る際には、相手を納得させるため、断る理由を述べることが求められます。ここの例でも、「結婚式に行くこと」が理由になっています。例えば Could you help me with this statistical analysis? (この統計分析を手伝ってくれない)と頼まれて、I'm sorry I can't.（ごめん、できません）と断ったとします。「申し訳ないけど」という気持ちが表現されていますが、これだけだと相手は納得しないでしょう。そこで、I'm sorry I can't. I don't know much about statistics. (ごめん、むりなんだ。僕自身も統計は詳しくないんだ)のように、手伝えない理由を述べる必要があります。さらに加えて、Why don't you ask John? He knows everything.（ジョンに聞いてみたら。彼ならなんでも知っているよ）と提案をしてあげるとなおいいですね。

さて、I'm sorry I can't.は依頼を断る際の表現ですが、「申し出や勧めを断る」という場合は、I'm sorry I can't. では不自然です。例えば、あなたが同僚の山田君に何か至急話したいことがあるとします。

A: Would you like me to tell Mr. Yamada you want to have a talk with him?

B: No, thank you. I'll tell myself.

この例に見られるように「申し出や勧め」を断る際の定番は、「感謝の意」を示すということです。上の No, thank you.は「いや大丈夫。ありがとう」ということですね。他にも以下のような表現が使われます。

Thank you very much for the offer, but …（申し出はとてもありがたいのですが）
Thanks for asking, but …（たずねてくれて本当にありがたいんだけど）
It's very nice of you to ask, but …（たずねていただいてお気持ちはうれしいのですが）

「感謝の意」を示すだけでなく、以下の例のように I'd really love to, but…（できればそうしたいが…）という気持ちを示しつつ断るやり方もあります。

A: Would you like to have dinner with Ms. Yamada and me?　山田さんと私と一緒に食事をしませんか。
B: I'd really love to, but I already have plans for dinner.　ぜひそうさせていただきたいところですが、夕食の予定が入っています。

上で説明したことを慣用表現ネットワークにまとめると、次のようになります。

・断るための慣用表現ネットワーク

I'm sorry I can't.
Thank you very much for the offer, but..
Thanks for asking, but …
It's nice of you to ask, but …
I'm sorry I can't. I have to attend…
I have to attend …
I wish I could, but …
I'd really love to, but …

・反論する（disagreeing）

次に、反論の仕方を見ていきましょう。ある意見に対して反論する際の最も直接的な言い方は以下の通りです。

I disagree. 反対です

No, I don't agree. いえ、賛成できません
I have an objection. 反論があります
I'm against the plan. その案には反対です

例えば、以下では、「若い人のほうが年配者よりもこの仕事には向いている」というAに対して、「反対ですね」と応答する例です。

- ✓ A: I think the younger people are more suitable to this job than the older ones.
- ✓ B: Well, I disagree.

このように、賛否両論がある議論などでは、反対であることをはっきりと言明することは決して失礼なことではありません。しかし、反論されるということは、相手にとってうれしいことではありません。下手をすると相手の気分を害してしまうことになりかねません。そこで、以下のように、相手を傷つけないように配慮した言い回しが求められます。

- ✓ Actually, I'm a little bit concerned about your way of making decisions. 実を言えば、あなたの決定の仕方にすこし懸念があります。
- ✓ I don't mean to argue with you, but you should give sufficient consideration to the cost performance. 議論をふっかけようというのではありませんが、コスト・パフォーマンスにも十分に配慮していただきたいと思います。

ここでは、相手の言っていること**を**言下に否定することなく、「相手の気持ちはわかるがそれでも…」という部分的に否定する形になっています。つまり、相手の意見を立てつつも、相手と異なる自分の意見を述べるという方法です。例えば、以下をみてみましょう。

- ✓ A: The Chinese restaurant is reasonable, but I don't like the atmosphere. そのチャイニーズレストランは、値段は手頃だけど、雰囲気が気に入らないな
- ✓ B: I see what you mean, but I like it because you get such a wide variety of dishes to choose from there. それはわかるけど、ぼくは、そこではいろいろ選べるから好きだな

もうひとつ例を挙げます。以下は、男女差について女性のAが感情的に発言したことに対して、Bがやんわりと応答する場面です。

- ✓ A: It's absolutely men's fault that women are oppressed. 女性が抑圧されているのは絶対に男性の責任よ！
- ✓ B: Yes, I understand what you mean, but I also think women who accept it help to

perpetuate the problem. たしかにそうです、でも、女性がそれを容認していることが問題を長引かせるのだとも私は思います。

ここでBは、相手の立場に理解を示しつつ、自分の意見を述べることで、相手に理性的に考える機会を与えるような表現をしています。I understand what you mean, but ..の代わりにI agree with you up to a point, but … のように「ある程度は賛成ですが」と持っていく方法もあります。

また、「相手に自分の意見の再考を促す（相手の意見を質す）」際には、以下のように Yes, that makes sense, but what about …?などもよく使われます。

- ✓ A: I think private medicine should be an option for anyone who wants it. 民間による医療も受けたい人には選択肢の１つにすべきだよ
- ✓ B: Yes, that makes sense, but what about people who cannot afford to pay for it? ええ、それはもっともです。しかし、その費用を払う余裕がない人たちはどうなるのでしょうか。

ここでは相手の意見を質すのにやんわりと表現していますが、もっと直接的な言い方としては The fact of the matter is …（実際問題としては）、I think you're mistaken.（間違っていると思います）などがあります。

もちろん、考えられない意見を示しているとか、自分とは真っ向から意見が異なるとか、無理難題をぶつけてきているとかいった場合には、That's out of the question.（論外だ）とかThat's impossible.（そんなのありえない）のように、感情的に反論することもあるでしょう。

以上を踏まえ、慣用表現ネットワークを作成すると以下のようになります。

否定する時の慣用表現ネットワーク

1. きっぱりと否定する

I disagree. 反対です

No, I don't agree. いえ、賛成できません

I have an objection. 反論があります

2. やんわりと否定する

You could say that, but .. そうともいえるけど

I agree with you up to a point, but … あるところまでは賛成だけど

Well, I see what you mean, but … うーん、君のいいたいことはわかるけど

3.　論外だと感情的に否定する

That's out of the question. それは論外だ
That's impossible. そんなのありえない
You're out of your mind! 正気じゃないよ

4.　相手の意見を質す

I think you're mistaken. 君は間違っていると思うよ
The fact of the matter is … 実際問題としては
May I just mention that …? ちょっと一言いいたいのですが

次の事例として、何かを述べる際に、一言前置きをする際の慣用表現をみていきます。

- **一言前置きをする際の慣用表現**

何かを言う際にいきなり本論に入るというより、自分の気持ちや態度を前置きすることがよくあります。例えば「子供は大人より外国語を学ぶのがうまい」といいたいとします。英語では Children are better than adults in learning a foreign language.となるでしょう。これをそのまま表現するのではなく、「一般論としては」だとか「言うまでもなく」などといった前置きをすると以下のようになります。

Generally speaking, children are better than adults in learning a foreign language.
Needless to say, children are better than adults in learning a foreign language.

言いたいことは同じですが、generally speaking（一般論としては）と needless to say （言うまでもなく）のいずれを選ぶかで、相手の応答も変わってくるはずです。
前置きの表現をタイプで分けると、以下のネットワークのように、(1)発話に向かう態度を示す、(2)話題の幅・表現の正確さを示す、(3)内容に対して感情的反応を示す、(4)内容についての話者の確信の度合いを示すの 4 種類に分かれます。

前置きを述べるための慣用表現ネットワーク

1.　発話に向かう態度を示す

honestly speaking（正直言うと）、 frankly（率直に言えば）、 to tell the truth（本当のことを言えば）、 ironically(皮肉なことに)、metaphorically speaking（比喩的な言い方

をすれば)、all jokes aside（冗談はさておき)、seriously, though（まじめな話)、off the cuff（思いつきだけど）など

2.　話題の幅・表現の正確さを示す

generally speaking (一般的な言い方をすれば)、 in general(一般的に)、strictly speaking（厳密にいうと)、specifically（具体的には)、loosely speaking（大まかな言い方をすれば)、roughly speaking（あらっぽ言い方をすれば)、linguistically（言語学的にいえば)、 to be more exact（もっと正確には)、technically speaking（やかましく言えば)、internationally（国際的には)、between you and me（ここだけの話ですが）など

3.　内容に対しての感情的反応を示す

to my surprise（驚いたことに)、to my disappointment（残念なことに)、unfortunately(残念なことに)、sadly(悲しいことに)、gladly（うれしいことに)、fortunately（幸運なことに)、 luckily（運のいいことに)、interestingly（興味深いことに）など

4.　内容についての話者の確信の度合いを示す

certainly（確かに)、obviously（明らかに)、 apparently（どうみても)、clearly（はっきりしているのは)、needless to say(言うまでもなく)、no doubt（疑いなく)、of course（もちろん)、probably（おそらく)、maybe（たぶん、なんとなく）

発話に向かう態度

「発話に向かう態度を示す」表現は、honestly のように形容詞に-ly を付ける副詞が多く使われますが、to be honest with you（君には正直にいうと）のような表現も多用されます。また、frankly は frankly speaking ともいいます。これから話すことに際しての発話態度を示すということで共通しています。通常は、「誠実に、そして率直に話す」というのが基本ですが、ironically speaking（皮肉な言い方をすれば）とか metaphorically speaking（比喩的にいえば）いうこともあります。

- ✓ Frankly (speaking), our boss has the human touch. 率直に言って、僕らの上司は人間味があるね。
- ✓ Ironically (speaking), the rich people always want to be richer, and they're never satisfied with what they possess. 皮肉な言い方をすれば、金持ちの人はいつももっと金持ちになりたいと考え、持っているものに満足することは決してない。

皮肉な言い方であると述べ立てることで、これから述べる内容に対して、発話者の態度を示していると言えます。決まり表現としては、Let me call a spade a spade.（はっきり言わせてもらいます）や I'm not joking.（冗談ではないよ）も「発話態度を表現する」慣用表現と考えることができます。相手がこちらのはっきりしない発話態度に不満を持てば、Give it to me straight.（ずばり言って）だとか Don't beat around the bush.（回りくどい言い方はやめて）と指摘されるでしょう。

話題の幅を設定する

「話題の幅」を設定することで、これから話す内容の適用範囲をあらかじめ述べてから、内容に入るという場合があります。That's an interesting finding.（それは興味深い知見だ）だと「興味深い」が及ぶ範囲が設定されません（なお、finding は「研究などの結果得られた知見」を表すのに使います）。ところが、Linguistically, that's an interesting finding. （言語学的には、それは興味深い知見だ）といえば、「言語学という分野において」と範囲を示すことになります。Internationally, that's an interesting finding. だと「国際的に、それは興味深い知見だ」ということです。もちろん、in the field of linguistics [physics, chemistry] （言語学[物理学、化学]の分野で）のような表現の仕方も可能です。以下の文頭の表現も話題の幅を設定する働きをします。

- ✓ Just between you and me, it looks like they're going to divorce. ここだけの話だけど、どうやら彼らは離婚するらしい
- ✓ A whale lives in the sea. But technically speaking, it's a mammal. 鯨は海に住んでいる。しかし、厳密には、鯨は哺乳動物だ
- ✓ Generally speaking, Japanese people aren't very outspoken. 概して、日本人はあまりおしゃべりではない

会話場面でも Why do you come to the office so early?と聞かれて、「概して(たいていは)、朝のほうがあまり混んでないので」といいたければ Generally speaking, the train is less crowded earlier in the morning.と表現することができます。

内容に対しての感情的反応を示す

これから述べる内容に対して感情的な反応を示した上でその内容を述べるということもよくみられます。「驚いたことに、彼は仕事を辞めて、アフリカに行っちゃったよ」だと以下のようになります。

- ✓ Surprisingly, he quit his job and left for Africa.
- ✓ To my surprise, he quit his job and left for Africa.

この to one's surprise は、以下のような応用もあります。

- ✓ To her pleasant surprise, Bob aired out the bedding before going to his office.　彼女には嬉しい驚きなんだけど、ボブは会社に行く前に布団を干してくれた
- ✓ Much to my surprise, she married Jim, not Bob, and one year later, she got divorced and remarried Bob. すごく驚いたんだけど、彼女はボブじゃなくて、ジムと結婚したの。でも一年後には、離婚して、ボブと再婚したのよ。

「とっても嬉しい驚きなんだけど」と強調したいときには to my very pleasant surprise と表現することもできます。「私にとってはとても大きい驚きであり喜びだが」だと to my great surprise and pleasure と応用することもできます。

もちろん、surprise の代わりに disappointment にすれば「失望」のありようを表現することができます。「失望」や「落胆」を表すときは、以下のような慣用表現を使うことができます。

much to one's disappointment　（大変残念なことだが）
to one's dismay(落胆したことに)
to one's regret(残念なことだが)

そこで「大変残念なことに、課長はぼくのアイディアを気に入ってくれなかった」は Much to my disappointment, the manager didn't like my idea. となります。同じような気持ちは、I'm disappointed with the manager's reaction to my idea. （ぼくのアイディアに対する課長の反応にはがっかりした）のように表現することもできます。

確信の度合いを示す

何かを述べる際に、「確かさ」の度合いをはっきりさせることがよくあります。「明らかに、岡田氏は人事判断でミスを犯した」だと Obviously, Mr. Okada made a mistake in his personnel decision. と obviously や clearly を持ってくるでしょう。「これから述べることは明白なことだ」という思いを表すのが、obviously です。

確信の度合いを示しながら、何かを言うという状況では、慣用表現も豊かです。以下にその

例を示します。まず、「確かに」に当たる表現です。

- ✓ Apparently, he was disappointed with the answer he received from Naomi. どうみても、彼はナオミの回答に失望していた。
- ✓ I'm confident that I'll be able to make a good presentation. 自信があるよ。よいプレゼンができるだろうということに対しては。
- ✓ I'm positive this product will be a big seller. 絶対に、この商品は大ヒットするだろう。
- ✓ Certainly, this training program is hard and challenging. 確かに、この訓練のプログラムはキツイし、やりがいがある

certainly や apparently は It is certain [apparent] that ….で言い換えることができますが、表現としては、話し手の確信というよりも「内容の確かさ」に重点が置かれます。

It is certain that … （客観的にみて）確かに～だ
It is probable that …. ～は(多分に)ありそうだ
It is possible that … （可能性としては)～はありうる

「生産コストが上がることはありうる」だと It is possible that production costs will increase. となります。

「確信の度合いが低い」あるいは「自分の確信に疑いがある」場合の表現は以下が典型的です。

- ✓ I'm not sure he will attend the party tomorrow.どうかなあ、彼、明日のパーティーに来るかな
- ✓ Possibly (Maybe), he'll refuse to receive the award. もしかしたら、彼はその賞を受け取ることを断るかもね。
- ✓ I'm skeptical about their sales forecast for the next quarter. 次の四半期の販売予測には懐疑的だな

発話に対して態度を示して話す訓練

では、ここで、「これからいう**こと**に対して、話し手の態度を示して話す訓練をする状況」を想定しましょう。

最初に、日本語で状況を説明しています。その上でこの状況を英語で表現したいとします。

ここで紹介した前置きの慣用表現を使って、英語にしてみましょう。正解は１つとは限りません。

状況１：高級服についたシミが取れないとクリーニング屋に言われ、「本当にがっかりしたんだけど、このシミは取れないんだって」と友人に伝える状況
(　　) they can't take this stain out.

状況２：What do you usually do on the weekend?（週末はいつも何しているの？）と聞かれて、「たいていは、土曜日は家事をして、日曜日には友達に会っている」と応答する状況。
(　　) I do housework on Saturday and meet friends on Sunday.

状況３：ナオミからのメールに応じないでいると「何で返事をしてあげないの？」と聞かれ、「はっきりいって、もうナオミのことを好きじゃないんだ」と応じる状況
(　　) I don't love Naomi any more.

状況４：Did you lose something? (何かなくしたの？)と聞かれ、「私のスマホが見つからないの。絶対にここにあったんだけど」と応じる状況
I can't find my smart phone, but (　　) it was here.

解答例：状況１：to my great disappointment、much to my disappointment；状況２　：generally speaking；状況３　：Frankly speaking, Frankly, To be honest with you；状況４　：I'm sure, I'm positive, I'm confident

次に、最後の事例として取り上げるのは、会話における話題の調整です。ここでも慣用表現の使われ方に注目してみましょう。

- **話題を調整する際の慣用表現**

私たちが真の英会話力を身に付けるのにはいったい何が必要でしょうか？　ただ漠然と英会話ができるようになりたいといっても、そのターゲットは実ははっきりしていないことが多いのです。本当の意味での会話力を育てるには、会話の流れを作り、流れに乗り、そして流れを変えるという具合に、積極的に会話の流れを調整していく力を身につける必要が

あります。一方的に相手の主導権にまかせるのではなく、こちらも対等の立場で会話の流れを調整するということです。もっとも、英語に自信がない人はすぐにそんなの無理だと考えるでしょう。

しかし、会話の相手は、あなたの英語にではなく、あなた自身に関心があるのです。そこで、会話にちゃんと向き合うには、英語力があるなしにかかわらず、積極的に会話を調整していくことが求められます。これを英語教育の分野では「会話管理能力」だとか「コミュニケーションの方略」と呼びます。

会話の流れを調整するといってもその基本は英語を使って行うのであり、まずは、そのための慣用表現を覚えることが肝要です。そこで、ここでは、「話題を調整する」ということに注目し、そのための慣用表現を紹介していきます。

話題を導入する

話題を導入するという行為は、会話の流れを作る上で不可欠です。何か新しい話題を導入する際に、日本語だと「知っている？」「こんなことがあったんだよ」と一言いってから会話をはじめることがよくありますが、英語でも次のような表現が使われます。

I have some good news for you.　よい知らせがあります
Do you know what happened to …?　〜がどうなったか知っている？
You'll never guess what happened.　（想像できないと思うけど）こんなことがあったんだよ
Guess what.　何があったか当ててごらん
You may not believe this, but …　信じないかもしれないけど

以下は I have some good news for you.を使った例です。

A: I have some good news for you. It looks like the board is going to accept your proposal.いい知らせだよ。どうやら役員会は君のプロポーザルを受け入れるらしいよ。
B: That's great. When do you think they'll let me know their decision?　それはすごいや。何時ごろ結論を教えてくれると思う？

「信じられないかもしれないけど、宝くじに当たったんだ」だと、You may not believe this, but I won the lottery.と、You may not believe this, but …を使うでしょう。いきなり I won the lottery.というより、You may not believe this, but …が前に来ることで自然な感じがしま

す。

もちろん、まず相手の注意を喚起してから話題を導入することもよくみられます。その場合、Listen!と Look!がよく使われます。それ以外にも Well…, You see…, So …などの表現を使うことができます。日本語でいえば、「ねえ」「えーと」「あのー」「で」に近い感覚の表現ですね。以下はその例です。

- ✓ You see, I have some good news for you. ねえ、いい知らせがあるんだ。
- ✓ Well, this is kind of short notice, but is it possible to transfer to the Madrid office? えーと、ちょっと急な話なんだけど、マドリッドの支社に転勤してもらえないかな。

何かがひらめいて、そのアイディアを話題として導入するという場合には、次のような慣用表現が便利です。

Hey, I've got an idea.ねえ、いい考え思いついたよ
I just thought of something.ちょっと思ったんだけど。
What do you think of this idea? これってどう思う？

相手に何かについて尋ねられ、自分の考えを導入する際の言葉というものもあります。日本語でいえば、「こんなのどうでしょう」といってから、内容に入るというやり方です。しばらく考えて、ある考えを導入する場合の英語の切り出し表現には、OK, how does this sound?（これはどうですか）がありますが、他のも以下のような表現を使うことができます。

I don't know, but one possible idea would be … よくわからないけど、ひとつ可能性があるのは…かな
I know what we can do. こうしたらいいんじゃない
I'll tell you what. じゃあ、こんなのどうでしょう

一例をみてみましょう。最近の読者の小説離れに危機感を感じている出版社が何か打開策はないかと議論しているところで、著者と読者が出会い、互いの関係を深めるというのはどうだろうと提案する場面です。

I don't know, but one possible idea would be that we have an event in July to deepen the relationship with our authors and readers.どうかわからないけど、ひとつの可能性としては、著者と読者の関係を深めるイベントを 7 月に開催するというのはどうだろう

話題の変更

ある話題が導入されれば、しばらくはその話題に関するやりとりが続くはずです。しかし、日常会話では話題の変更や脱線がしょっちゅう起こります。ある話題について徹底的に話すというよりも、むしろ思いつくまま話題を展開させていくのが日常会話です。その場合、いきなり話題を変えてもルール違反ではありませんが、「戦略的な会話の流れの調整」ということからいえば、「話題を変更するよ」という言語によるシグナルを送る訓練をしておくといいです。途中で話題を変更したり、脱線したりする際の慣用表現には以下が含まれます。

Oh, by the way…ああ、ところで
Incidentally … ちなみに
To get off the subject a moment, … ちょっと話題は逸れるけど
That reminds me of something.それで思い出したことがある。
Do you mind if I change the subject?　話題を変えてもかまいませんか。

これらの表現を使ったいくつか文例を以下に挙げておきます。

- ✓ Oh, by the way, did you call her?　ああ、ところで、彼女には電話した？
- ✓ Incidentally, all four of them will take an entrance examination this Friday.ちなみに、彼ら 4 人はみんな今度の金曜日に入試を受けることになっている
- ✓ To get off the subject a moment, who are going to take care of your mother? ちょっと話題は逸れるけど、だれがお母さんの面倒を見るの？

話題を変更したあとで、元の話題に戻したいことがあるでしょう。いわゆる「軌道修正」ですが、そのための慣用表現の典型としては次が含まれます。

To return to our main topic, … 話題を戻すと～
Anyway …いずれにせよ～
In any case…ともかく～
All jokes aside…冗談はさておき～
Seriously, though,… まじめな話、
Let's get back to … ～に話を戻しましょう

以下はその使用例です。

- ✓ Anyway, you don't need to be so worried about him. いずれにせよ、彼のことはそんな

に心配することはないよ。

- ✓ In any case, you should tell him the truth.ともかく、彼には真実を伝えるほうがよい。
- ✓ All jokes aside, we have to prepare for a potential threat.　冗談はさておき、ぼくらは起こりうる危険に備えなければならない
- ✓ Seriously, though, it is really helpful that he came back to our team.　まじめな話、彼が我がチームに戻ってくれたら本当に助かる

「何を話していましたっけ？」は、以下のように、そのまま What were we talking about?ですが、Where was I?ともいいます。

What were we talking about? Oh, yes, we were talking about biodiversity.　何を話していたんでしたっけ？そうそう、話していたのは生物多様性についてでしたね。

話題の変更を望まない

会話では通常、話題はどんどん変わっていくものです。しかし、特にミーティングなどでは話題がコロコロ変わるのは望ましくありません。そこで「話題を変えないで」だとか「話題からそれないようにしましょう」と表現すること、議論の流れを調整することがあります。その場合に、有用な表現は以下の通りです。

Please don't change the subject.　話題を変えないでください
Before we begin talking about that, let's finish the discussion at hand.それについて話す前に、今の議論を済ませましょう
Let's not get off the subject.話題から離れないようお願いします
Would you mind staying with the subject?　もうすこしこの話題で議論してかまいませんか I don't want to change the subject.　話題を変えたくありません

自分が話していて割り込まれたときなど「最後まで聞いてください」といいたいことがよくあります。その場合の表現は Hear me out, please.です。

話題の回避

英語に自信がなく、むずかしそうな話題になったときにどうするでしょうか。ある調査によれば、日本人学習者の場合、話題そのものを回避する人が少なくないようです。確かに、個人的に好ましくない話題だと考えれば、それを回避したくなるものです。これは正当な回避です。しかし、問題はその回避の仕方です。特に、英語でのやりとりの場合だと、黙ったま

まで、苦笑いをしたり、はっきり反応しないというケースが見られます。相手は、無視されたと考えるかもしれません。回避の仕方の中でも、暗黙の回避は誤解の元です。そこで、話題を避けたいときには、その意図を明確に言語で表現することが大事です。

I'd rather not talk about it.　それについては話したくありません
Let's not talk about that.　それについて話すのはやめましょう
Let's not go into that.その話題に入るのはよしましょう
Let's not bring that up.　そのことは持ち出さないようにしましょう
I don't feel like talking about that.　そのことは話したくありません
Let's talk about something else.　何か別のことを話しましょう
Can we change the subject to a more pleasant one?　もっと楽しい話題にしませんか

こういう表現を使うことができるかどうか、それが会話の流れを調整する上では肝心です。

最後に、話題を調整するための慣用表現ネットワークをまとめておきます。こういった表現を駆使して、会話の流れを自ら調整するできるよう、指導してください。

話題を調整するための慣用表現のネットワーク

1.　話題を導入する口火を切る

I have some good news for you.
Do you know what happened to …?
You'll never guess what happened.

2.　何かひらめいて話題を開示する

Hey, I've got an idea.
I just thought of something.
What do you think of this idea?

3.　提案を求められ暫く考えた後でアイディアを述べる

I don't know, but one possible idea would be …
I know what we can do.
I'll tell you what.

4.　途中で話題を変更したり、脱線する

Oh, by the way…
Incidentally …

To get off the subject a moment, …

5.　元の話題に戻す

To return to our main topic, …

Anyway …

All jokes aside…

6.　話題の変更を望まない

Please don't change the subject.

Let's not get off the subject.

I don't want to change the subject.

7.　話題の回避

I'd rather not talk about it.

Let's not talk about that.

Let's not go into that.

Fin